

世界中のほとんどの山にはそれぞれ想いを込めた由緒ある名前が付けられている。そこには、特別な歴史的いわれや貴重なエピソードが込められているものだ。ところが、中には案外軽々しく命名した例もある。世界一の高峰 8848mのエベレストにしても、地元で親しまれていた「チョモランマ」（チベット語で‘大地の母神’の意）のままで良さそうなものだが、強引に当時のイギリスのインド測量長官「ジョージ・エベレスト」の名に因んで命名した。2番目に高い 8611mの「K 2」峰の意味不明の命名の由来は、単純にカラコルム山脈測量番号 2号を意味する“Karakorum No. 2”から名付けられた。そして、世界で一番長い山の名は、実は長過ぎてとても一度に覚えきれない。ニュージーランドの標高僅か 305mの山だが、「タウマタファカタンギハンガ〜」（カタカナで全 51 文字、アルファベットで全 92 文字）といい、現地のマオリ語そのままである。

大学の山岳クラブで初めて夏山合宿に参加し、上高地から槍ヶ岳を経て奥穂高岳から北アルプスの名峰が続く裏銀座コースを縦走していた時のことである。前方に大小の峰々がずっと続く大きな山並みがあり、その中に一際雄大な山を見た。それが、この辺りでは最も高い 3,000m 級の「野口五郎岳」（標高 2924m）だった。歌手野口五郎がデビューする遙か以前のことであったので、その山

の名を聞いても、山に関係深い人物の名前だろう程度にしかなかった。

そして、それから十余年の時が過ぎ、1972年西城秀樹、郷ひろみとともに、新御三家歌手のひとりとして、野口五郎が「NHK紅白歌合戦」に当時 16歳 10か月の史上最年少で出場して話題になった。北アルプスで知ったあの名峰の名を芸名にした話題の歌手の登場には些か驚いた。

ところが、この山「野口五郎岳」は、「野口五郎」という実在した人物に因んで名付けられたわけではなかった。山は長野県と富山県の県境にあって、「野口」とは長野県大町市の集落「野口」に由来し、「五郎」とは大きな石が転がる「ゴロゴロ」の語呂合わせから名付けられたロマンのかけらもないものだったのである。歌手野口五郎の命名の由来は、山好きのマネージャーが、「山のように逞しくしてほしい」という願いから偶々名峰「野口五郎岳」の名を拝借したものであった。

4年前NHK番組「日本人のおなまえ」に出演した野口本人は、自らの芸名「五郎」は「ゴロゴロ転がる石ころ」がその由来だと初めて知り、少なからずショックを受けたようだった。

初めてあの北アルプスの「野口五郎岳」を踏査してから大分年月が経過したが、ことの経緯はともかく、やっとあの名峰命名のいわれと、それにあやかった歌手・野口五郎が誕生した他愛のない経緯を知ることになった。

エッセイスト 近藤 節夫